

2025年8月19日
先生のための夏休み経済教室

わかる「公共」：経済授業の目次を組み替える

篠原 総一

経済教育ネットワーク代表
同志社大学名誉教授
中国人民大学客座教授

0 講演の前に：なぜ、見直しか

0: 講演の前に

1 30年の反省

教え方の工夫 ○

教える内容の工夫 ×

何十年も変わらぬ目次構成、何十年も変わらぬ索引項目
でも社会は様変わり

2 中学公民、高校公共の経済単元：大学経済学部のカリキュラムのつまみ食い

- ・経済学部のカリキュラムは、大学生に伝えるメッセージとメッセージの伝え方を反映しているが、
- ・高校経済単元の目次構成と定番の（索引）項目

家計、企業、市場、金融、財政、労働、社会保障、国際経済、環境
には、

高校生に伝えるメッセージと、メッセージの伝え方が見当たらない

3 現行の経済教育の枠組みには

教育学のプロ、教育のプロでは気づかない欠陥

経済学のlesson proだから気づく欠陥、or 気づくことができる欠陥 が多い

- ・経済単元で学ぶ「社会」は 抽象の世界

抽象の世界のことを中学生、高校生に教える時、何が必要か：

- ・抽象を抽象として理解する教えるの枠組か？ それとも
- ・徹底した「見える化」の工夫か？

4 教える項目と教える順序は 教える側の価値判断を反映する

教える項目の抽出は 生徒の役にたつ知識と考え方に絞るべき

(経済学を教える上で役にたつ項目ではない)

そのためには、高校公共で扱う「社会の側面」は、どんな側面かを認識しておく必要あり

(社会人に教え「経済」でも、経世済民の学が扱う「経済」でもない)

わたしは、それを(経済単元の冒頭で定義する「経済とは」を)

私たちの暮らしを みんなで支え合う 社会の仕組み

としたい

5 経済教育見直しのねらい

教育の3要素 「誰に、何を、どう」 教えるのか

公民、公共の経済単元では、

誰に 「普通の中学生、高校生に」

何を 「生徒の役に立つ知識や考え方を」

どのように 「肌感覚でわかる・納得できる」 ように

教える経済教育の目次構成と項目の選択 としたい

本日の講演は、そのような目次構成と索引項目選びに関する見直しの中間報告である

1.なぜ見直し、なぜ目次の組み替えか

1-1. 経済教育のなぜ

- ・なぜ教えづらいのか
- ・なぜ生徒の興味を引き出せないのか
- ・なぜ生徒が自分ごととして取り組んでくれないのか
- ・なぜ生徒を理解するレベルまで誘導し切れないのか
- ・なぜ生徒が腑に落ちる経済授業にすることが難しいのか
- ・ . . .
- ・ . . .
- ・ . . .
- ・なぜ生徒が 社会を見る目、経済を見る目を身につけられないのか

1-2. なぜ「経済教育のなぜ」なのか

- なぜ壁か： 公民、公共の経済単元は、大学経済学部のカリキュラムのつまみ食い
 - ・ 生徒の壁： 社会経験、抽象的理解力が備わっていない生徒
 - ・ 先生の壁： 経済学の専門家ではない先生
 - ・ 経済学の壁： 経済学は抽象的な学問
 - ・ 授業時間数の壁： 30時間で教え切るという制約

- 経済学で教えることの壁 （エコノミストにしか見えない壁）
 - ・ 経済学は抽象の世界
需要曲線、供給曲線、均衡価格、GDP、インフレ、・・・
 - ・ 隠されている前提条件
財の同質性、生産要素の可逆性、・・・ （抽象世界を分析するための単純化の仮定）
 - ・ 新古典派経済学や経世済民が教える項目のつまみ食い： 公民、公共で教えるべき項目か
貨幣供給量（M1, M2など）、国際収支表、弾力性、・・・

1-3 . 「壁」を乗り越えるには (30時間の壁は残したままで)

- どう教えれば、乗り越えたことになるのか

公民・公共の「教育の3要素」：「誰に、何を、どう」教えるのか

- (1)「普通の生徒」が、
- (2)「将来役にたつ知識、制度、考え方」を、
- (3)「腑に落ちるように、納得できるように」教えたい

- 取り上げる項目は、適切に選ばれているか

概念、制度の知識、考え方など、教科書の索引に載せるような項目

- 1 項目の選択：公民、公共の説明に適しているか
- 2 本質の選択：生徒がそれを使って社会のことを考える道具になっているか

項目と本質の選択は、公共、公民で教える「経済」の定義から

新古典派経済学では、「社会の限りある資源を効率的に活用して個人の最大限の満足を追求する活動の体系、合理的な個人と合理的な企業をつなぐ市場」を教えるのに 適した項目を取り上げている。

経世済民では、「経世、つまり社会や国家を運営し安定させるための制度, 政策、手段を教えるのに適した項目を取り上げている。

では公民や公共では, どんな「経済」について学び、考えようとしているのだろうか。

1-4. 普通の高校生に公共で教えたい「経済」の定義

私たちの暮らしを みんなで支え合う 社会の仕組み

なぜこの定義か

■ 学ぶ側にとって

ここまで単純にしておけば、この定義が、

- ・普通の高校生が
- ・自分と接点のある経済の側面を観察して、
- ・観察の結果気づいた人々の行動や制度に関する知識を足がかりにして（自分ごととして）学んでいける（授業で取り上げる項目の「なぜ」が生徒にも伝わるから）

■ 教える側にとって

定義の中の「みんな」に、価値判断の余裕を残しているから

- ・新古典派的教育
- ・Raghuram Rajan：市場、政府、コミュニティー
- ・宇沢弘文：市場、政府、社会的共通資本
- ・ . . .

（定義は、必ずしも生徒に見せる必要はないが、

教える側が、教えるべき項目を選択した理由を認識する上で欠かせない作業である）

1-5. 「私たちの暮らしをみんなで支え合う社会の仕組み」の見方・考え方

・「経済」の6つの本質

- ・ キーワード： 希少性、 分業と交換、 つながり
- ・ 准キーワード： 信頼、 機会費用、 効率と公正

希少性だから機会費用

希少性だから効率的に

効率的には、自給自足よりも分業と交換で

分業と交換はつながり

つながるのためには信頼

それでもなくなるのが不公正

1-6. 目次作りの注意点：30時間で教えるには

- (1) 目次は、経済が「私たちの暮らしを支える仕組み」であることがわかるようになっているか
- (2) 目次立てと節立ては、見えるものから見えないものへ、順に繋がっているか
- (3) 項目は、本質(生徒が学んでおけば役に立つもの) だけに絞られているか
- (4) 項目は、生徒の肌感覚で理解できるものになっているか
- (5) 章と章、節と節を結ぶ接続詞は用意されているか(説明のストーリー化はできているか)

2. 目次の作り方

2-1. 目次作りの基本：生徒にも見える経済に

(1) 「私たちの暮らしを支えているモノとコト」の一覧表を(表1)を作る

- ① 暮らしになくてはならないモノ：消費財、耐久消費財、サービス
- ② 暮らしを支える生活インフラ：エネルギー、交通・情報交換
- ③ 暮らしの質を高める人間生活基盤：医療、教育、福祉
- ④ 経済社会基盤：金融、財政、マクロ政策、安心安全、環境

(2) 暮らしを支えるモノとコトがどこからきたのか、普通は生徒には見えない経済のプロセスを見える化する

プロセスを見える化するための資料

- ① 消費財： 生産工程
- ② 生活インフラ： 生産工程
- ③ 人間生活基盤： (制度の見える化)
- ④ 経済社会基盤： (制度の見える化)

(3) 見える化した「仕組みの具体」を足がかりにして、「経済の本質の学び」につなげていく

(従来の経済教育では、「経済学が作り出した抽象(抽象的な仕組みや考え方)を足がかりにして、・・・」)

表1 私たちの暮らしを支えるもの

暮らしを支える	中分類	例	どこからくるのかな	
消費財	消費財	洋服、シャツ、下着	小売店、ショッピングモール、ネット市場	市場
		肉、魚、野菜、果物、コメ	スーパー、コンビニ、ネット市場	市場
		家具	家具販売店、ネット市場	市場
	耐久消費財	家電製品	量販店、ネット市場	市場
		自動車、自転車	販売店	市場
	消費サービス	娯楽、趣味、旅行	映画館、教室、ホテルなど	市場
		外食	レストラン	市場
生活インフラ	エネルギー	電気、ガス	電力会社、ガス会社	市場
		石油	ガソリンステーション	市場
		水道	地方自治体	自治体
	移動サービス	移動サービス共同利用	電車、バス、航空	市場（一部自治体）
	情報	電話、インターネット	通信会社	市場
		郵便、宅配	郵便局、宅配業者	市場
	その他	ゴミ処理	地方自治体	自治体
人間生活基盤	医療	予防、診察、治療、ケア、	病院、保健所、薬局、民間医療施設	政府、自治体、民間
	教育	基礎教育、キャリア教育、生涯教育	学校、民間教育	政府、自治体、民間
	福祉	社会保障制度		政府、自治体
		児童福祉、高齢者福祉、障害者福祉	ボランティア活動、NPO活動など	福祉団体など
経済社会基盤	金融	金融サービス	金融機関（銀行、保険会社、証券会社）、金融庁	金融市場
	財政	税、補助	政府	政府、自治体
	マクロ経済管	財政政策	政府	政府、自治体
		金融政策	日本銀行	日本銀行
	安心安全	警察、消防、災害	政府、自治体、自衛隊、民間警備会社、ボランティア	政府、市場
		経済安全保障	食糧、エネルギー、・・・、	政府、企業
	環境		公害、・・・、地球環境、・・・、住環境	政府、自治体、企業

表2：ファストファッション企業の生産工程

(ファストファッション企業：トレンドを迅速に取り入れ、比較的低価格で衣料品を販売する企業)
(ユニクロの持ち株会社の企業名は Fast Retailing Co.,Ltd)

- **市場調査、生産開発、デザイン** (どこで： 主に日本で)
- ↓
- **原材料（綿花、羊毛、石油）** (どこで：インド、オーストラリア、サウジアラビア、・・・)
- ↓ ↓
- **製糸（綿糸、ウール毛糸、ポリエステル糸）** (工場はどこに：インド、パキスタン、中国、韓国、・・・)
- ↓
- **織布** (工場はどこに：インド、パキスタン、バングラディッシュ、中国、韓国・・・)
- ↓
- **縫製** (工場はどこに：ベトナム、中国、インド、トルコ、日本など)
- ↓
- **品質管理** (縫製地で)
- ↓
- **在庫管理** (販売店の近くの倉庫、配送センターで)
- ↓
- **販売**

企業Uの店舗

日本 約800店舗、 海外 約1800店舗 (2023年)

企業Uのオンラインショップ（ネット市場）

約20カ国

2. 目次の作り方

2-2. 目次の立て方

- ・表1を、右へ右へと伸ばしていくことによって、学びを「見えるものから、見えないものへ」つないでいく（見える化の工夫）
- ・表1を下へ下へとつなぐ章立て：取り上げる対象を、(1)「自分のために購入する身近なもの」、(2)「毎日のように利用するインフラ」から(3)「一般に市場で取引されていない教育、医療、福祉など」へ、最後に(4)社会全体管理運営する社会の基盤（（金融、財政、経済政策など）へ広げていく
- ・表の中の例（具体的商品名、できれば企業名）を駆使して、「見える化」と「自分ごと化」を徹底したい
- ・表2は、可能なら第一次産業、第二次産業、第三次産業の企業の工程表を比較すれば、なおよい
- ・章と章、節と節のつながりを確認するために、授業の節目節目で何度もこの表を見せる

■ この目次立てで可能になること

2種類の仕掛け（（表1）「暮らしを支えるモノとコト」の一覧表、（表2）「モノ」や「コト」が私たちの手元に届くまでの工程の見える化）が、

経済学習を「自分ごとの学び」、「肌感覚で分かる学び」に変える

概念や考え方（理論）を肌感覚で使える道具に変える

社会はつながっている、という経済の本質を巧まずして徹底させる

なによりも、普通の生徒が「善く生きる」ための知識と考え方を身につける確率がうんと高まる

3. 企業の教え方

3-1: 企業の授業：節立て

表 1 の消費財の段を右へ右へと辿っていく授業

(1) 「私たちの暮らしを支えるモノ」としての消費財の生産工程表を用意する。（表 2）

(2) 工程ごとの生産現場や販売現場の文字情報、写真、動画などから、生徒に気づいて欲しい「企業の実際」
（生徒だけでは全てを拾い出せるわけではない。先生が提示して、生徒はそれを確認し、納得するという順番で良いか）

- ・ 生産要素を使っている（工業用地、工場で働いている人、裁断機やミシンなど）
- ・ 労働を雇用している（どんな働き方があるか、具体的に）
- ・ 過去に投資をした機械設備を何年も使っている（家計で言えば、耐久消費財と同じ役割）
- ・ 技術開発を続けている
- ・ 貿易をしている、直接投資をしている（どの国と何の貿易している、どの国に工場があるか）
- ・ 生産は川上から川下まで、いろんな企業とつながっている
- ・ 経営をしている（ここでは、つながりを統括しているという気づきまでか）

(3) 生徒の気づきを足がかりにして、「企業の本質」を教科書風に整理する。（一般論）

- ・一般論（抽象的な項目名）であっても、企業活動の実際例と結びつけば、知識を覚える学習から使う学習、考える学習に変えることができる。

（企業の本質 1）企業の生産の仕組み：原材料と生産要素（土地、労働、資本、情報、技術）が生産を支えていること
生徒の経済を見る目につなげ易い

例えば、賃金や為替レートの変化が、なぜ消費財の生産コストや生産量に影響するのか、といった隠れたプロセスを考える（現行の教科書では、供給曲線がどちらにシフトしたら、、、という教え方）

（企業の本質 2）労働を雇用していること：企業での働き方を観察すれば、働き方と労働問題の実際をイメージするようになる

労働を別の章で扱う場合でも、ここでの企業学習で身につけた労働のイメージをつなぐげて欲しい（章と章、節と節のつながり）

労働需要のわけ、働き方の多様性

労働供給のわけ

労働条件（正規雇用、非正規雇用、長時間労働、働くインセンティブ、労働三法の意味など）

働き方改革

賃金と失業の関係

3. 企業の教え方

(企業の本質 3) 企業活動は規制に取り囲まれている (建設、運送、食品などの生産工程の方が効果的か)

教科書が与える印象 (企業は原則自由)が非現実的であること

企業活動のほぼ全ての生産工程で規制 (とくに安全規制) がかかっていること

規制の多くは、社会基盤「安心・安全」の歯車の一つであること

ここから規制改革の考え方につなげることもできる

規制にはメリット (例えば、私たちの安心安全を守る) と、デメリット (たとえば、規制クリアーのためのコストが商品価格を押し上げている) の両面がある。だから、政府はつねに規制のあり方を検討している (規制改革推進会議など)。

規制のメリット、デメリットとに気づけば、生徒の目は、社会問題になっているような規制のあり方に向かっていくのではなかろうか。

(企業の本質 4) 時間軸でみる企業活動

1. 生産と販売に時間差があること。ここから

①工場に倉庫があるのはなぜ? 都市郊外に大型配送センターがあるのはなぜ?

②企業が倒産するのはどんな時? 倒産は赤字でなく債務返済(前に借りたお金の返済)の問題

2. 生産現場では、過去に購入した機械設備を何年も使い続けている

①投資 (金融投資ではなく、設備投資) の役割

②旧式機械と新式機械では技術差があること。ここから技術開発の意味 (の一つ) に

3. 企業の資金需要 (1)運転資金、 (2)設備投資資金。 この箇所を必ず金融の章へつなぐこと

3. 企業の教え方

(企業の本質 5). 「企業の生産」はつながっていること

生産工程から、委託先企業、サプライチェーン

貿易、直接投資（生産、販売）、委託生産、委託販売などにつなぐ

ここから、為替レート、関税・保護貿易などにもつなぐことも可能

(企業の本質 6) 経営と企業の責任 （関連性を保持して知識整理する）

① 本社で何を決めている？コーポレート・ガバナンスの考え方

② 企業の法的根拠 （どの法規制にも理由がある、という認識を持たせてほしい）

有限会社、株式会社など

株式会社の本質：多額の資金調達、有限責任

登記、届け出（兼業農家といえども）

規制遵守の義務

納税の義務（なぜ税か）

③ CSR （納税、利益配当以外のステークホルダー）

4. 市場の教え方. (企業から教える市場)

4-1. どんな市場があるのかな : endless list

衣料品市場、食料品市場、コメ市場、果物市場、日用品市場、金融市場、株式市場、債券市場、
保険市場、労働市場、自動車市場、中古車市場、住宅市場、マンション市場、建材市場、、・・・、
ネット市場、ゲーム市場、・・・

企業の章までの学びから類推できる市場は2種類

① 消費財市場 私たちと消費財生産企業をつなぐ場（販売店、ネット市場など）

② 企業間市場 生産工程と生産工程の結び目、生徒の目に見えないが多い

①消費者市場 消費財の売買は年間500兆円規模(2022年)

②企業間市場 年間数千兆円規模（2022 年）

その他は、必要に応じて

③ 金融市場、労働市場、株式市場、外国為替市場などを
、経済教育上重要なものだけ市場名を出し、
を取り上げれば十分か

この章では、市場（取引する場、分業と交換の要）の本質を順に並べていくが、

企業が主に①、②の市場でとる行動の実際を例を足がかりにして、市場の本質の意味を肌感覚でわかるように整理していく。

4. 市場の教え方. (企業から教える市場)

4-2. 教えるべき市場の本質（教えたい市場の本質）

（市場の本質 1）市場システムは、市場のつながりでできている
フリードマンの定義

（市場の本質 2）価格は、数ある取引条件の一つ

- ・ 取引条件：価格、品質保証、製品納期など
- ・ 価格の決め方

企業が決めるのが普通：生産コスト、需要予想、他社との製品の質の違い、他社の価格などを勘案しながら

教科書の価格の決めり方の説明は、なぜ非現実的で、生徒に納得できにくいのか

抽象的な教え方：生産コスト要因を供給曲線に、需要予測要因を需要曲線で代替させる、
前提条件：どの企業の商品も同質（性能、使い良さ、故障の程度、デザイン、材質などがすべて同じ、違うのは価格だけ）

生徒が観察するのは、製品差別の市場価格

4. 市場の教え方. (企業から教える市場)

(市場の本質 3) 市場競争と市場価格

- ・ (寡占の場合でも) 企業間競争の結果、価格はほぼ一定の範囲内に収まっていく
(これが、教科書で市場の価格調整メカニズムで言いたかったこと)
- ・ 競争が制限されていると、2025年米騒動のようなことが起こる (不当価格なる表現)
- ・ 企業競争には
 - (1) 価格競争
 - (2) コスト競争
生産と経営の効率化
 - (3) 製品差別化競争
企業が、比較優位を作り出そうとする競争
商品開発、模倣、特許 の問題 (捨てネタとして薬: ジェネリックは分かりやすいケースかも)
概念としては、① (正の) 外部効果と、②特許で競争を制限している間の消費者の負担

4 市場の教え方. (企業から教える市場)

(市場の本質 4) 価格競争の道具：価格づけの種類（生徒が興味を持ちそうなpricing、それぞれ理由あり）

- ・ 均一価格
- ・ 独占競争価格（ブランド品の価格など）
- ・ 差別価格：航空、電車・バス、映画館などの大人料金、子供料金
- ・ 量による割引価格（ポイント割引も）
- ・ 2部料金：固定部分と利用料の2部に分けた料金、携帯電話、テーマパーク、電気・水道など
- ・ ダイナミックプライシング：航空や鉄道料金
- ・

4 市場の教え方. (企業から教える市場)

(市場の本質 5) 規模の経済と市場の規模

- ・なぜ市場には大企業と中小企業がある？
- ・なぜ大企業は海外市場へも進出する？
- ・多くの産業で寡占になっているのはなぜ？

キーワード：規模の経済（これまで経済教育では取り上げてこなかった概念）

直感的には、供給曲線が右下がりになるようなケースだと思えばよい

ここから発展した教え：経済を見る目を養う授業にもなる

- ・企業集中が進む産業と、多数の企業が競争する産業があるのはなぜ？

ショッピングセンターの大型化、商店街の店舗が閉鎖していく理由

それでも個人経営の小企業が盛んなケースがあるのはなぜ？

- ・寡占は悪い？ 独占禁止法が禁止する行為とは？

4. 市場の教え方. (企業から教える市場)

(市場の本質 6) アダム・スミスが見えざる手

- ・ 経済学が説く「市場の働き（市場メカニズム）」の本質中の本質であるが、理屈は抽象的で、中高生が理解することは不可能に近い。
- ・ 経済社会全体の資源配分のこと。市場価格の変化に応じて生産者が土地、労働などの限りある生産資源をある産業から別の産業へうつしていく。そのプロセスが、利己主義が結果としてみんなの幸せに結びついていく、という理論である。教科書では、需要曲線と供給曲線の交点で資源の効率利用が実現するとだけ記述するものさえ見受けられた。

- ・ 高校生に市場の資源配分機能について触れるならば、簡単な例え話が精一杯か。

大都市で多くの消費者がコメよりも野菜を好むようになると、米の需要が減り、野菜の需要が増える。

その結果、市場では米の価格が下がり、逆に野菜の値段が上がる。

日本中の農家は米と野菜の価格を見て、同じ土地や労働を使うなら高く売れる野菜の生産に回そうとする。

このようにして、消費者も農家も自分の利益だけを考えて行動しているのに、結果的には（野菜をもっと食べたいという消費者の希望も、野菜作りでもっと利益が上げたいという農家の希望も）皆んなの希望が実現されていく。

言い換えれば、他人の意思や希望を感知しなくても、農家が米と野菜の市場価格だけを見て自分の持つ生産資源を振り返る、これがアダム・スミスが見えざる手の働きの本質。

（それを、需要曲線と供給曲線の交点で資源の効率利用が実現する、と教える教科書があったりしたことは、残念ながら限りです）

4. 市場の教え方. (企業から教える市場)

(市場の本質 7) 市場の失敗

市場の失敗：「失敗」とは、アダム・スミスの見えざる手の働きを阻害する、という意味で使われている。

授業では、市場の失敗のそれぞれの「失敗の理由」を肌感覚で分かるように説明できて初めて、使える知識や使える考え方になっていく。

(1) 独占・寡占

- ・市場が独占・寡占になる場合の理由

政府の許認可などの人為的な参入障壁が独占・寡占の原因である場合

規模の経済性などの理由で、市場で集中が進んでいく場合

- ・独占・寡占の不都合は？
- ・独占禁止法の正確な意味は？

(2) 外部不経済の弊害

ここで公害問題に触れるのも一法か

外部不経済と規制の関係

(3) 非対称情報の弊害

- ・情報化と非対称情報の関係
- ・企業が利潤機会を作り出す（非対称情報を作ることによって比較優位を得る）場合と最初から情報の非対称情報が存在していた場合

5. 生活インフラ・生産インフラ：エネルギー（とくに電力）の教え方.

5. 電力市場

5. 電力の教え方

(5-1) 需要と供給の見える化

1. 誰が、どのように使っているだろう（需要の見える化）

電気なしでは、現代の経済は成り立たないことの確認

・生活インフラとしての電力

私たち 電灯、家電（冷蔵庫、掃除機、エアコン、テレビ、パソコン、・・・）

自動車、スマホ、・・・

・生産インフラとしての電力

企業 店舗照明、エアコン、工場の生産用エネルギー、・・・

情報センター

鉄道、航空・・・

政府 ・・・

(5-2). 電気はどこから来るの

(生産工程と市場競争の実際を調べにいくための準備)

(企業の章では、ユニクロの生産工程から読み取れたが、電気の章では、いきなり生産工程を出しても生徒の具体的なイメージに届きにくい。そこで (1)まず企業名から企業や市場のイメージを植え付け、その上で (2) その企業の生産工程をイメージさせる、という 2 段構えの構造をとる。)

- ・ 電線、電池、自家発電
- ・ どんな企業から買っているのかな

資料として、地域の電力供給会社とシェアを一覧表にしてみる (AIの活用が便利)

例えば東京では

- | | |
|----------------|-----------|
| ① 東京電力ホールディングス | シェア30～40% |
| ② 新電力会社 | シェア30% |
| ソフトバンクでんき | |
| 楽天エナジー | |
| Loopでんき | |
| エネット | |
| オリックス電力 | |
| ③ その他中小の電力供給会社 | |

(5-3 a)) 電気はどこから来るの (供給の見える化)

・東京電力の生産工程は？

発電（火力発電、水力発電、原子力発電）

発電の場所（それぞれ、立地の理由あり、地理学習と融合か）

火力発電：静岡県御前崎市、富士市、新潟市、東京都江戸川区

水力発電：栃木県日光市、東京都奥多摩町、

原子力発電：福島県大熊町、富岡町

↓

配電線網

↓

利用者

居住者、産業系利用者の場所

東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、茨城県、群馬県・栃木県の一部

(5- 3 b) 電気はどこから来るの （供給の見える化）

- ・新電力業者の生産工程

発電（風力発電、太陽光発電、地熱発電、バイオマス発電）

発電の場所

自然条件による場合

都市商業ビル屋上など

廃棄物処理施設などなど

↓

東京電力の配電網を利用 （一部、電池に蓄電）

↓

利用者

・

5-4. 電力市場

2016年新電力法（正式名 改正電気事業法）の前後で、独占から寡占競争に

(1) 2016年新電力法まで

東京電力の地域独占

なぜ独占？ なぜ地域独占？ なぜ自然独占？

あまりにも大きかった「規模の経済」

- ・ 旧来の(伝統的な) 発電方法の発電施設
- ・ 利用者までの長大な配電網設備

自然独占：政府が地域独占を認め、その代わりに独占行為（不当な価格づけ）を禁止

規制価格の典型例であった

学ぶこと：自然独占の理由と他の例 （過疎地の店舗、バス、病院、学校など）

規制価格の理由と他の例 （公共料金、・・・(自然独占以外でも))

(2) 2016年新電力法

- ・ ① 電力小売の自由化 → 新電力会社の設立
- ・ ② 送電部分の分離（発電と送電配電を分離して経営しても良い：上下分離）
- ・ その結果、新電力会社が参入:なぜ参入の壁を乗り越えたのか
 - 発電：規模の経済の壁が低い発電方法（太陽光、風力など）
 - 送電：東京電力の配電網を借りる
- ・ 市場競争の結果
 - 良かったこと
 - ・ 利用者の便が高まった
 - ・ 料金プランの多様化、選択の範囲が広がった
 - ・ 電力料金が低下した
 - ・ 再生可能エネルギーの利用と環境への配慮が強くなった
 - 悪かったこと
 - ・ 新発電会社への補助金配分政策の効率性公正性：まだ検討中

5-4. 電力市場の学習から学ぶこと

(電力市場の本質 1)

- ・ 電力生産の原材料は？ ここから環境学習につなぐ
- ・ 原子力発電のリスク 安全安心の課題へつなぐ

(電力市場の本質 2)

- ・ 自然独占とは？ 地域独占とは？ (発電設備と配電網の規模の経済)
- ・ 自然独占と規制価格

(電力市場の本質 3)

- ・ 独占と競争の違い、市場競争の役割
- ・ エネルギー基盤のうち、電力、ガス、石油は寡占市場、
でも水道（上水道、下水道）だけはなぜ地方自治体の公共サービスか？
- ・ ゴミ収集には、地方自治体と民間ごみ回収業があるのは、なぜ。